

花を代表して木村先生にお礼のご挨拶する



重度障がい児支援 花色

NEWS LETTER

vol.49

2024. 11.20

木村正剛
先生

「今年も、ありがとうございます！」

10月16日、こどもつくる（北海道立子ども総合医療・療育センター）でリハビリ経験をもつ理学療法士の木村先生（現在：北海道こども発達研究センター理事長）が、『かつて 新生児科のこども達や、PTの先輩に学んだことをこどもさんにお返しできたら・・・』と、一昨年は日帰り、昨年は2日間、今年はなんと3日間も時間を割いて花色に来て下さいました。滅多にない貴重な機会に「先生、わたしの抱っこの仕方を直すところありませんか？」スタッフから次々と声があがります。木村先生は都度、角度や支える位置や圧を手取り足取り指導してまわってくれました。「身体を起こすことで周りを見回せていますね。」「抱っこで排痰も促せましたね。」「側弯で縮まった皮膚の皺を優しく伸ばしましょう。」と“こどもと支援者の状態”を言語化しながら丁寧に指導してくれました。「抱っこは最強の療育です。こどもさんの状態にあわせて理想の椅子（の様）になれます。安楽に療育活動に参加することができます。」こども達は姿勢が整うと、表情を豊かにして応えてくれました。今回は<講話会>も設け、保護者様と一緒に学ぶ時間をとることもできました。経験や知識を惜しみなく伝えていただき、心から感謝しております。これからもどうか宜しくお願い致します。 スタッフ一同



春光の 地区の皆さま

いつも
ありがとう

地域の皆様と一緒に歩む花色でありたいと、夏季は体操教室。冬は手芸教室を開き、交流をとっています。9月26日、秋の避難訓練では北部住民センターまで地域の方とバギーを押して歩きました。こども達もドキドキしながらご挨拶。

無事、避難訓練を終えた時「LINEでつながりませんか？困ったら連絡して欲しいもの。」と、声をかけてくださり、とっても心強く感じました。

地区の皆様にご理解をいただき、こども達の成長を一緒に見守ることができ嬉しく思っています。『これからも、よろしくお願いします！』

二人介助の
移乗を学ぼう
11/19



月に一度の運転手さんとスタッフの内部送迎講習会



送迎中に救急車を呼ぶ時

「なんか変！」

勇気をもって車を止めます。



[学校・コンビニ・スーパー]
広くて、救急車に移すことができ、
「今ここにいます。」が伝えやすい所に停めます。

【反応と呼吸の確認】

呼びかけ「〇〇ちゃん！」
呼吸、心音を確認

意識がない



【心配蘇生】

降りると判断したら外へ！
状況により全員降ろします。
(看護師の目に入る範囲にするためです。)

<運転手>

- ①三角板を出す
- ②人を呼ぶ
「AEDを持ってきてください！」
- ③他のこどもを見る

<看護師>

- ①胸骨圧迫
- ②緊急時対応方法を開く



【救急搬送】

他の子が送迎車に同乗している時は、

救急車に、原則ついていきません

ご理解ください

月に一度
送迎車での対応方法や、
マニュアル確認等を
運転手さんと一緒に
行っています。



おすすめ

ブルーチーズ 北海道

北海道は、チーズ工房があちこちにありま
す。どこのチーズもととても美味しいです。
その中でも、ワインや日本酒にもあうブルー
チーズでオススメなのは、興部(おこっぺ)町の
【ジャパブルーおこっぺ】です。乳の風味が良
くて濃厚。ちどけが良く柔らかいチーズです。
あたたかいパスタに
和えたり、ご飯に混ぜ
たり、のついたり。
旭川でも、たまに見か
けるブルーチーズ。
お取り寄せもできます。





「喉をつまらせたら！」どうしたら良いのかな？

重度障がい児支援 花色

NEWS LETTER



キャンディ釣れるかな？
お菓子をゲットしよう！

ハロウィン

お菓子をくれなきやイタズラしちゃうぞ



お知らせ



情報提供文書

隔月で発行している療育活動の情報提供文書を“5領域の支援評価”にあわせて改善します。
①健康・生活 ②運動・感覚 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション ⑤人間関係・社会性に沿って、子ども達の将来を見据え支援していきたいと考えています。様式の変更は 12月～です。



指定福祉避難所（利用対象者：花色契約者様&ご家族）

指定福祉避難所になってから1年が経ちます。
災害対策委員会は、その後も旭川市防災課の皆様と平時からできること”を継続して話し合っています。今後の予定として、保護者さまが抱えている災害対策や疑問、不安、要望について防災課の皆様と“意見交換の機会”を検討しています。
地域力を高め、絆をふかめ助け合っていきたいですね。
※ という薬局の管理薬剤師の齊藤宏樹は災害支援ケアマネージャーとして相談受けます。



被災地に行って学んだこと

仮設トイレ



イベントや住宅建設現場にもある仮設トイレを皆様も一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか？避難所にも仮設トイレが設置されます。自分が日常的に使うことを想定して観察する方は、そうそういせんよね？実は仮設トイレって9割が和式です。しかも汲み取り式で、大人数が使うと溢れます。そして電気がありません(真っ暗)。トイレに行きたくないから、脱水になる方もいます。災害備蓄品には、水や食料と一緒に簡易トイレを人数×7日分置くことをおすすめします。

重度障がい児支援 花色

vol.49

2024. 11. 20

NEWS LETTER



花色の

スヌーズレン



スヌーズレンは、音や光、香り等の五感を刺激してゆったりゆったりリラックスをすして、自分らしく過ごす療育活動です。オランダが発祥で、個々の感性を支援者と共有して伸ばすこともできます。花色の子ども達もみんな手を伸ばしたり、光の移り変わりをじ〜っと見入っています。

口腔ケアSTのあ、南原さんがハロウィンの仮装で来た！



ハミガキしなきゃ、イタズラしちゃうぞお〜

なんでボクモかなあ



花色の卒業生 Hくんと、Yちゃんが数年ぶりに来てくれました。「大きくなったね！」「おしゃべり上手だね。」と嬉しい再会になりました。またあそびに来てね〜。



11月2日

以前、花色に通所していた潤一くん(16歳)がお空に旅立ちました。

ご挨拶に伺うと、小さい時とかわりなくツヤツヤ頬っぺで、可愛いく安らかな笑顔で眠っていました。

お父さんと、お母さんから潤一くんが使っていたバギーと、車椅子のキャスター用スキー等をいただきました。大切にしたいと思います。

私たちは潤一くんのご家族に出会えて幸せな時間を過ごすことが出来ました。「じゅんちゃん、ありがとう。」

